

# 第 45 回「秋田県内家計の消費動向調査」結果

## (令和 4 年 9 月調査)

～ 足元の消費マインドは悪化 ～

### 【調査の要旨】

- **消費指数**は▲99.6（前期比 3.5 ポイント下落）と 2 期ぶりの悪化となった。内訳をみると、景気判断指数が▲57.8（同 4.3 ポイント下落）と 2 期ぶりの悪化となった一方、暮らし向き判断指数は▲41.8（同 0.8 ポイント上昇）と小幅ながら改善となった。
- **今後の見通し**は▲107.1（今回調査比 7.5 ポイント下落）と悪化が見込まれている。内訳としては、景気判断指数が▲60.2（同 2.4 ポイント下落）、暮らし向き判断指数が▲46.9（同 5.1 ポイント下落）とともに悪化が見込まれている。
- **大きな買い物**への支出意向をみると、「予定がある」と回答した世帯の割合は、「住宅、土地の購入」では 0.0%（前期比 0.4 ポイント低下）と低下となった一方、「海外旅行」は 0.0%と横這い、「住宅リフォーム」では 4.3%（同 0.5 ポイント上昇）、「自家用車の購入」では 6.8%（同 0.4 ポイント上昇）とともに上昇となった。
- **家計簿調査**は、収入面では可処分所得（収入の手取り額）が 455 千円となり、前年同期と比べて 21 千円の減額となった。支出面では支出合計が 417 千円となり、前年同期比で 24 千円の増額となった。この結果、平均消費性向（家計支出/可処分所得）は 91.8%（前年同期比 9.1 ポイント上昇）となった。
- **夏季ボーナスの支給状況**については、家計の主たる収入を得ている人について、夏季ボーナスが支給されたかどうかを尋ねたところ、「支給された」が 81.5%（前年比 1.2 ポイント上昇）と 3 年連続で上昇し、全体の 8 割以上を占めた。また、「支給された」と答えた世帯に、ボーナスの使い道（最も金額の大きい物）について尋ねたところ、「貯蓄」が 43.1%（前年比 2.4 ポイント低下）と引き続きトップとなったほか、「生活費の補てん」も 42.0%と前年から 8.0 ポイント割合が上昇してほぼ同様の割合となった。

令和 4 年 10 月

株式会社フィデア情報総研

## 目次

I.	消費指数 .....	1
II.	消費指数（内訳） .....	3
1.	景気判断 .....	3
(1)	景気判断の概況 .....	3
(2)	景気判断の推移 .....	4
2.	暮らし向き判断 .....	5
(1)	暮らし向き判断の概況 .....	5
(2)	暮らし向き判断の推移 .....	6
III.	支出意向 .....	7
1.	支出意向 D I の推移 .....	7
2.	支出意向（大きな買い物）の推移 .....	8
IV.	家計簿調査 .....	9
V.	特別調査 .....	11
1.	夏季ボーナスの支給状況と使い道について .....	11
(1)	夏季ボーナスの支給について .....	11
(2)	支給状況 .....	11
(3)	主な使い道 .....	12
(4)	貯蓄の目的 .....	12
VI.	調査の概要 .....	13

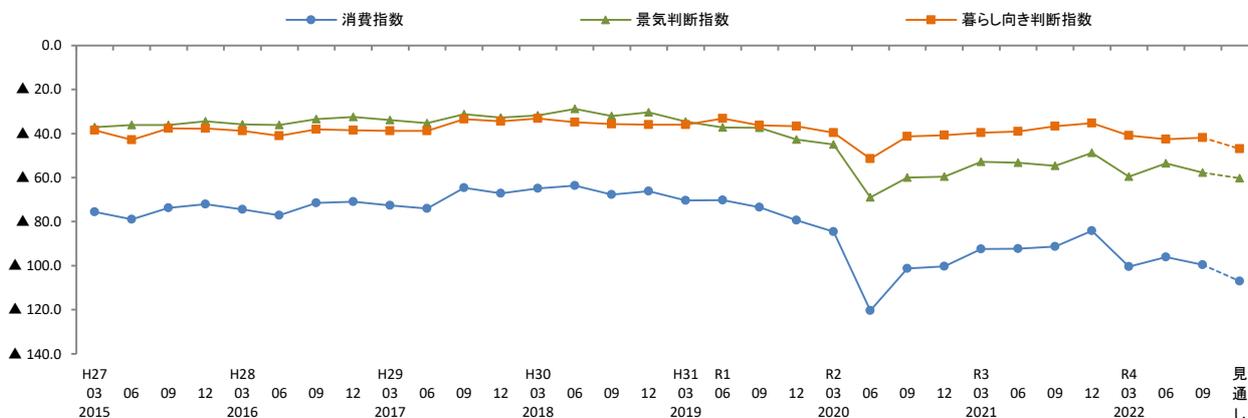
# I. 消費指数

## ～ 足元の消費マインドは悪化 ～

消費指数は▲99.6（前期比 3.5 ポイント下落）と 2 期ぶりの悪化となった。内訳をみると、景気判断指数が▲57.8（同 4.3 ポイント下落）と 2 期ぶりの悪化となった一方、暮らし向き判断指数は▲41.8（同 0.8 ポイント上昇）と小幅ながら改善となった。

なお、今後の見通しについては▲107.1（今回調査比 7.5 ポイント下落）と悪化が見込まれている。内訳としては、景気判断指数が▲60.2（同 2.4 ポイント下落）、暮らし向き判断指数が▲46.9（同 5.1 ポイント下落）とともに悪化が見込まれている。

図表 1 消費指数の推移



調査時期		消費指数		
		消費指数	景気判断	暮らし向き判断
3年	9月	▲ 91.3	▲ 54.6	▲ 36.7
	12月	▲ 84.1	▲ 48.8	▲ 35.3
4年	3月	▲ 100.5	▲ 59.6	▲ 40.9
	6月	▲ 96.1	▲ 53.5	▲ 42.6
4年	9月	▲ 99.6	▲ 57.8	▲ 41.8
	(前期比)	(▲ 3.5)	(▲ 4.3)	(0.8)
	(前年同期比)	(▲ 8.3)	(▲ 3.2)	(▲ 5.1)
4年	見通し	▲ 107.1	▲ 60.2	▲ 46.9
	(今回調査比)	(▲ 7.5)	(▲ 2.4)	(▲ 5.1)

### 【指数の見方】

消費指数は景気判断指数（景気・雇用環境・物価の3項目で構成）と暮らし向き指数（世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成）の合計からなり、値は 200～▲200 の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

図表2 消費指数（内訳）の推移

消費指数

調査時期	消費指数	(1)景気判断指数							(2)暮らし向き判断指数									
		①景気		②雇用環境		③物価			④世帯収入		⑤保有資産		⑥お金の使い方		⑦暮らしのゆとり			
H30年	3月	▲64.9	▲31.7	▲7.6	▲3.1	▲21.0	▲33.2	▲7.1	▲9.6	▲5.5	▲11.0							
	6月	▲63.6	▲28.8	▲6.1	▲1.8	▲20.9	▲34.8	▲7.1	▲10.1	▲5.6	▲12.0							
	9月	▲67.7	▲32.0	▲8.6	▲3.7	▲19.7	▲35.7	▲8.2	▲10.6	▲5.5	▲11.4							
	12月	▲66.2	▲30.3	▲7.7	▲2.4	▲20.2	▲35.9	▲7.8	▲10.6	▲5.3	▲12.2							
H31年 R1年	3月	▲70.4	▲34.5	▲8.7	▲3.5	▲22.3	▲35.9	▲8.1	▲10.4	▲6.1	▲11.3							
	6月	▲70.3	▲37.2	▲10.1	▲4.5	▲22.6	▲33.1	▲7.8	▲10.1	▲4.5	▲10.7							
	9月	▲73.5	▲37.3	▲9.9	▲5.0	▲22.4	▲36.2	▲7.5	▲11.1	▲5.8	▲11.8							
	12月	▲79.4	▲42.7	▲11.6	▲7.8	▲23.3	▲36.7	▲8.8	▲11.1	▲5.7	▲11.1							
2年	3月	▲84.5	▲44.9	▲15.5	▲9.1	▲20.3	▲39.6	▲7.9	▲11.5	▲7.8	▲12.4							
	6月	▲120.4	▲69.0	▲24.1	▲22.1	▲22.8	▲51.4	▲12.1	▲13.5	▲11.9	▲13.9							
	9月	▲101.3	▲60.0	▲20.2	▲18.9	▲20.9	▲41.3	▲9.4	▲10.6	▲8.9	▲12.4							
	12月	▲100.3	▲59.5	▲21.0	▲19.9	▲18.6	▲40.8	▲10.2	▲10.8	▲7.8	▲12.0							
3年	3月	▲92.4	▲52.8	▲17.1	▲15.9	▲19.8	▲39.6	▲9.4	▲10.4	▲7.9	▲11.9							
	6月	▲92.3	▲53.2	▲16.4	▲16.1	▲20.7	▲39.1	▲9.1	▲9.6	▲8.7	▲11.7							
	9月	▲91.3	▲54.6	▲16.7	▲15.1	▲22.8	▲36.7	▲7.9	▲8.7	▲8.9	▲11.2							
	12月	▲84.1	▲48.8	▲12.4	▲11.0	▲25.4	▲35.3	▲8.4	▲9.3	▲6.8	▲10.8							
4年	3月	▲100.5	▲59.6	▲18.3	▲13.8	▲27.5	▲40.9	▲9.5	▲10.3	▲8.5	▲12.6							
	6月	▲96.1	▲53.5	▲14.1	▲10.2	▲29.2	▲42.6	▲9.6	▲11.2	▲8.3	▲13.5							
	9月	▲99.6	▲57.8	▲16.2	▲12.2	▲29.4	▲41.8	▲9.1	▲10.5	▲8.8	▲13.4							
	12月(見通し)	▲107.1	▲60.2	▲18.3	▲13.7	▲28.2	▲46.9	▲11.2	▲11.5	▲10.6	▲13.6							

(前期差)

調査時期	消費指数	(1)景気判断指数							(2)暮らし向き判断指数									
		①景気		②雇用環境		③物価			④世帯収入		⑤保有資産		⑥お金の使い方		⑦暮らしのゆとり			
H30年	3月	2.2	1.0	1.1	0.9	▲1.0	1.2	0.0	0.5	0.4	0.3							
	6月	1.3	2.9	1.5	1.3	0.1	▲1.6	0.0	▲0.5	▲0.1	▲1.0							
	9月	▲4.1	▲3.2	▲2.5	▲1.9	1.2	▲0.9	▲1.1	▲0.5	0.1	0.6							
	12月	1.5	1.7	0.9	1.3	▲0.5	▲0.2	0.4	0.0	0.2	▲0.8							
H31年 R1年	3月	▲4.2	▲4.2	▲1.0	▲1.1	▲2.1	0.0	▲0.3	0.2	▲0.8	0.9							
	6月	0.1	▲2.7	▲1.4	▲1.0	▲0.3	2.8	0.3	0.3	1.6	0.6							
	9月	▲3.2	▲0.1	0.2	▲0.5	0.2	▲3.1	0.3	▲1.0	▲1.3	▲1.1							
	12月	▲5.9	▲5.4	▲1.7	▲2.8	▲0.9	▲0.5	▲1.3	0.0	0.1	0.7							
2年	3月	▲5.1	▲2.2	▲3.9	▲1.3	3.0	▲2.9	0.9	▲0.4	▲2.1	▲1.3							
	6月	▲35.9	▲24.1	▲8.6	▲13.0	▲2.5	▲11.8	▲4.2	▲2.0	▲4.1	▲1.5							
	9月	19.1	9.0	3.9	3.2	1.9	10.1	2.7	2.9	3.0	1.5							
	12月	1.0	0.5	▲0.8	▲1.0	2.3	0.5	▲0.8	▲0.2	1.1	0.4							
3年	3月	7.9	6.7	3.9	4.0	▲1.2	1.2	0.8	0.4	▲0.1	0.1							
	6月	0.1	▲0.4	0.7	▲0.2	▲0.9	0.5	0.3	0.8	▲0.8	0.2							
	9月	1.0	▲1.4	▲0.3	1.0	▲2.1	2.4	1.2	0.9	▲0.2	0.5							
	12月	7.2	5.8	4.3	4.1	▲2.6	1.4	▲0.5	▲0.6	2.1	0.4							
4年	3月	▲16.4	▲10.8	▲5.9	▲2.8	▲2.1	▲5.6	▲1.1	▲1.0	▲1.7	▲1.8							
	6月	4.4	6.1	4.2	3.6	▲1.7	▲1.7	▲1.1	▲0.9	0.2	▲0.9							
	9月	▲3.5	▲4.3	▲2.1	▲2.0	▲0.2	0.8	0.5	0.7	▲0.5	0.1							
	12月(見通し)	▲7.5	▲2.4	▲2.1	▲1.5	1.2	▲5.1	▲2.1	▲1.0	▲1.8	▲0.2							

(前年同期差)

調査時期	消費指数	(1)景気判断指数							(2)暮らし向き判断指数									
		①景気		②雇用環境		③物価			④世帯収入		⑤保有資産		⑥お金の使い方		⑦暮らしのゆとり			
H30年	3月	7.7	2.1	1.7	2.8	▲2.4	5.6	0.8	1.8	1.8	1.2							
	6月	10.5	6.5	3.3	2.6	0.6	4.0	0.7	1.3	1.4	0.6							
	9月	▲3.1	▲0.8	▲0.1	0.5	▲1.2	▲2.3	▲0.6	▲0.2	▲1.0	▲0.5							
	12月	0.9	2.4	1.0	1.6	▲0.2	▲1.5	▲0.7	▲0.5	0.6	▲0.9							
H31年 R1年	3月	▲5.5	▲2.8	▲1.1	▲0.4	▲1.3	▲2.7	▲1.0	▲0.8	▲0.6	▲0.3							
	6月	▲6.7	▲8.4	▲4.0	▲2.7	▲1.7	1.7	▲0.7	0.0	1.1	1.3							
	9月	▲5.8	▲5.3	▲1.3	▲1.3	▲2.7	▲0.5	0.7	▲0.5	▲0.3	▲0.4							
	12月	▲13.2	▲12.4	▲3.9	▲5.4	▲1.3	▲0.8	▲1.0	▲0.5	▲0.4	1.1							
2年	3月	▲14.1	▲10.4	▲6.8	▲5.6	2.0	▲3.7	0.2	▲1.1	▲1.7	▲1.1							
	6月	▲50.1	▲31.8	▲14.0	▲17.6	▲0.2	▲18.3	▲4.3	▲3.4	▲7.4	▲3.2							
	9月	▲27.8	▲22.7	▲10.3	▲13.9	1.5	▲5.1	▲1.9	0.5	▲3.1	▲0.6							
	12月	▲20.9	▲16.8	▲9.4	▲12.1	4.7	▲4.1	▲1.4	0.3	▲2.1	▲0.9							
3年	3月	▲7.9	▲7.9	▲1.6	▲6.8	0.5	0.0	▲1.5	1.1	▲0.1	0.5							
	6月	28.1	15.8	7.7	6.0	2.1	12.3	3.0	3.9	3.2	2.2							
	9月	10.0	5.4	3.5	3.8	▲1.9	4.6	1.5	1.9	0.0	1.2							
	12月	16.2	10.7	8.6	8.9	▲6.8	5.5	1.8	1.5	1.0	1.2							
4年	3月	▲8.1	▲6.8	▲1.2	2.1	▲7.7	▲1.3	▲0.1	0.1	▲0.6	▲0.7							
	6月	▲3.8	▲0.3	2.3	5.9	▲8.5	▲3.5	▲0.5	▲1.6	0.4	▲1.8							
	9月	▲8.3	▲3.2	0.5	2.9	▲6.6	▲5.1	▲1.2	▲1.8	0.1	▲2.2							
	12月(見通し)	▲23.0	▲11.4	▲5.9	▲2.7	▲2.8	▲11.6	▲2.8	▲2.2	▲3.8	▲2.8							

## II. 消費指数（内訳）

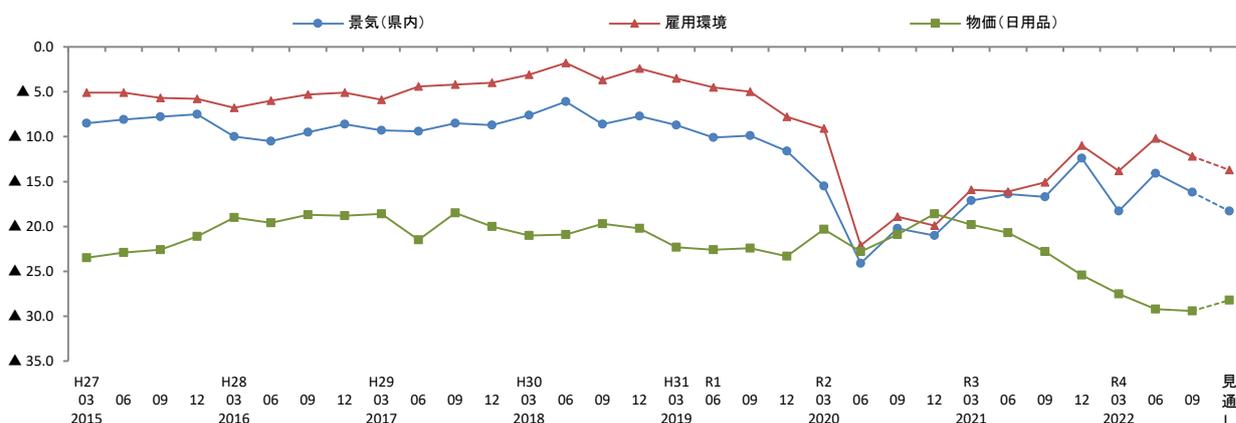
### 1. 景気判断

#### (1) 景気判断の概況

景気判断指数は▲57.8（前期比 4.3 ポイント下落）と 2 期ぶりの悪化となった。指数を構成する個別指数でみると、「景気（県内）」「雇用環境」「物価（日用品）」の 3 項目すべてで悪化となった。

なお、今後の見通しについては▲60.2（今回調査比 2.4 ポイント下落）と悪化が見込まれている。個別指数でみると、「物価（日用品）」では▲28.2（同 1.2 ポイント上昇）と改善が見込まれる一方、「景気（県内）」は▲18.3（同 2.1 ポイント下落）、「雇用環境」は▲13.7（同 1.5 ポイント下落）と、ともに悪化が見込まれている。

図表 3 景気判断指数（内訳）の推移



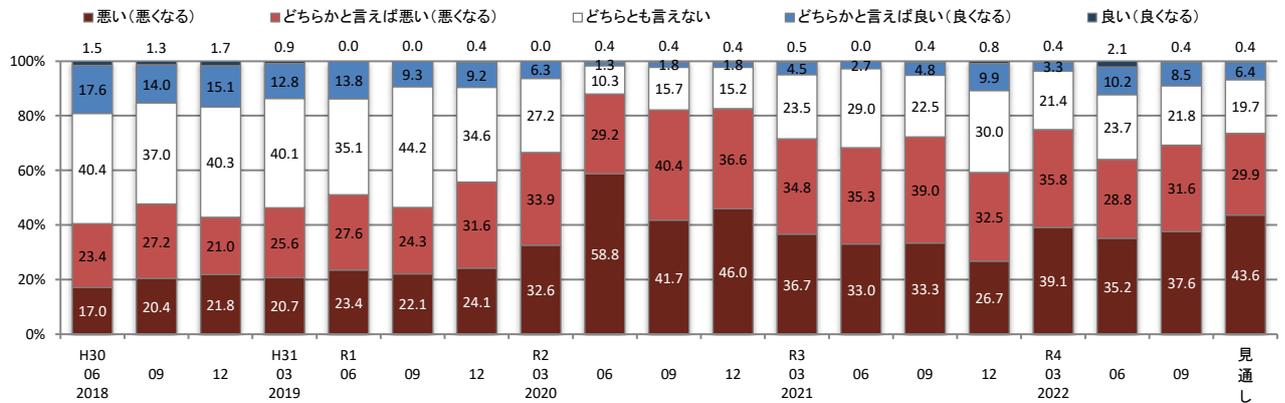
調査時期		景気判断指数			
		景気(県内)	雇用環境	物価(日用品)	
3年	9月	▲ 54.6	▲ 16.7	▲ 15.1	▲ 22.8
	12月	▲ 48.8	▲ 12.4	▲ 11.0	▲ 25.4
4年	3月	▲ 59.6	▲ 18.3	▲ 13.8	▲ 27.5
	6月	▲ 53.5	▲ 14.1	▲ 10.2	▲ 29.2
4年	9月	▲ 57.8	▲ 16.2	▲ 12.2	▲ 29.4
	(前期比)	(▲ 4.3)	(▲ 2.1)	(▲ 2.0)	(▲ 0.2)
	(前年同期比)	(▲ 3.2)	(0.5)	(2.9)	(▲ 6.6)
4年	見通し	▲ 60.2	▲ 18.3	▲ 13.7	▲ 28.2
	(今回調査比)	(▲ 2.4)	(▲ 2.1)	(▲ 1.5)	(1.2)

#### 【指数の見方】

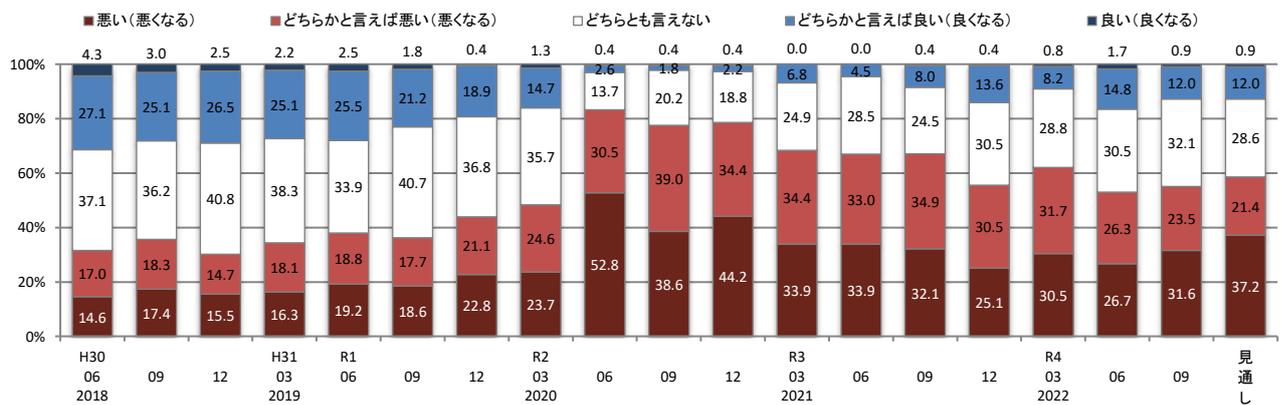
景気判断指数は景気（県内）、雇用環境、物価（日用品）の3項目の合計からなり、値は100～▲100の範囲をとります。指数がプラスであれば県内景気は高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば低迷していると判断します。

## (2) 景気判断の推移

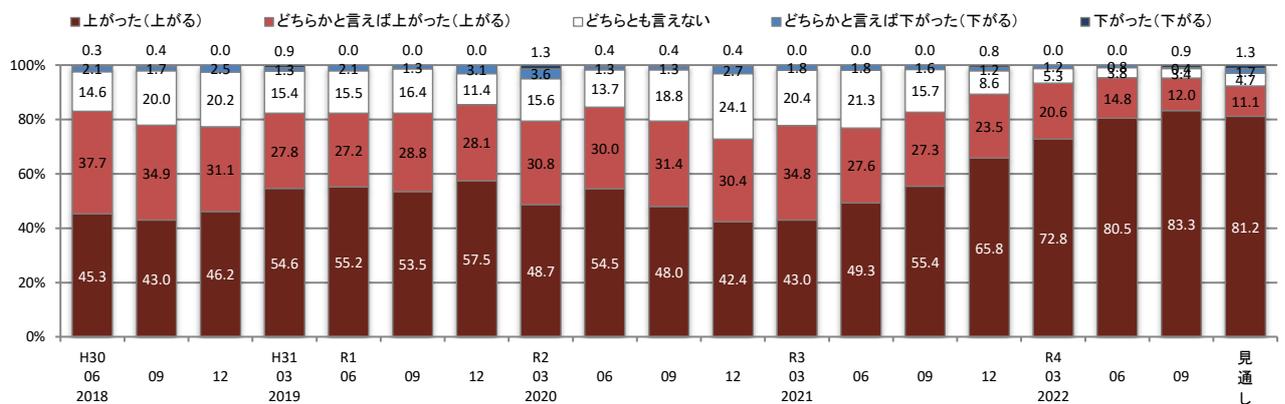
### ① 景気（県内）



### ② 雇用環境



### ③ 物価（日用品）



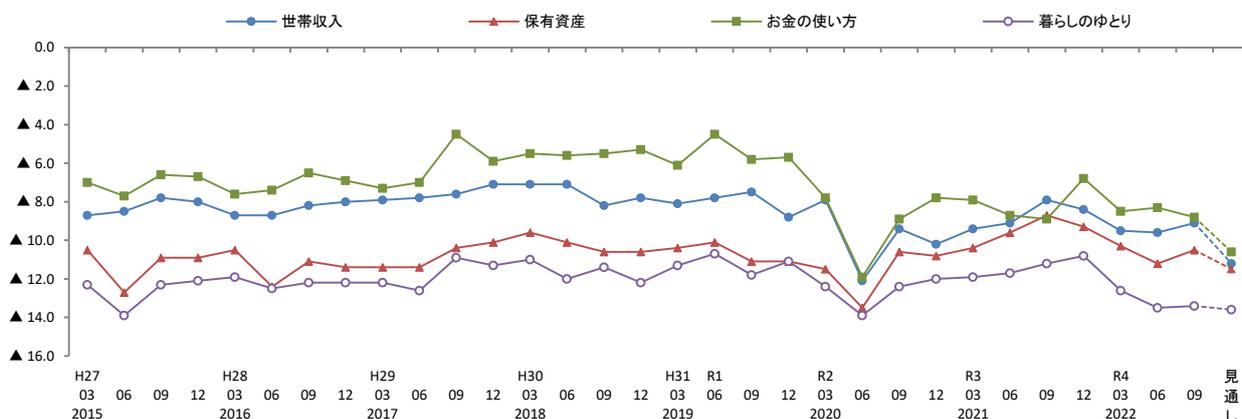
## 2. 暮らし向き判断

### (1) 暮らし向き判断の概況

暮らし向き判断指数は▲41.8（同 0.8 ポイント上昇）と小幅ながら改善となった。指数を構成する個別指数でみると、「お金の使い方」が小幅ながら悪化となった一方、「世帯収入」、「保有資産」、「暮らしのゆとり」の3項目はいずれも小幅な改善となった。

なお、今後の見通しについては▲46.9（今回調査比 5.1 ポイント下落）と悪化の見通しとなっている。個別指数はすべての項目で悪化が見込まれており、「世帯収入」が▲11.2（同 2.1 ポイント下落）、「保有資産」が▲11.5（同 1.0 ポイント下落）、「お金の使い方」が▲10.6（同 1.8 ポイント下落）、「暮らしのゆとり」が▲13.6（同 0.2 ポイント下落）となっている。

図表4 暮らし向き判断指数（内訳）の推移



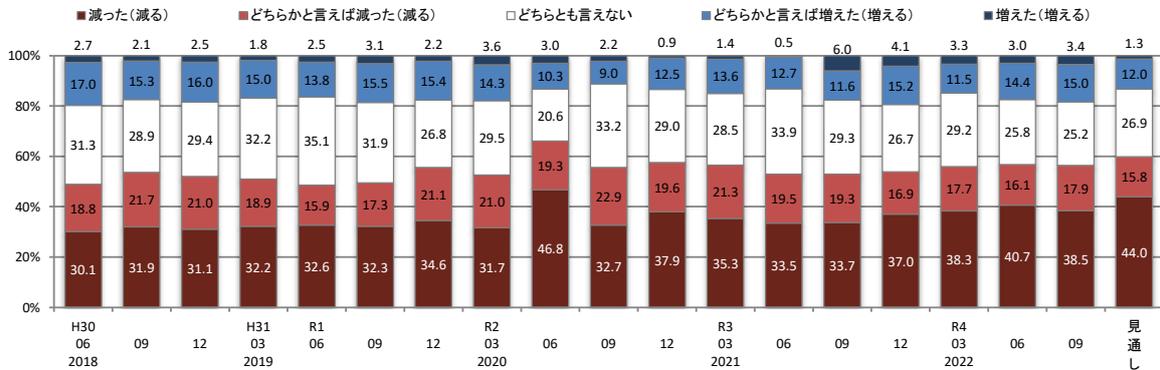
調査時期		暮らし向き判断指数				
		世帯収入	保有資産	お金の使い方	暮らしのゆとり	
3年	9月	▲ 36.7	▲ 7.9	▲ 8.7	▲ 8.9	▲ 11.2
	12月	▲ 35.3	▲ 8.4	▲ 9.3	▲ 6.8	▲ 10.8
4年	3月	▲ 40.9	▲ 9.5	▲ 10.3	▲ 8.5	▲ 12.6
	6月	▲ 42.6	▲ 9.6	▲ 11.2	▲ 8.3	▲ 13.5
4年	9月	▲ 41.8	▲ 9.1	▲ 10.5	▲ 8.8	▲ 13.4
	(前期比)	(0.8)	(0.5)	(0.7)	(▲ 0.5)	(0.1)
	(前年同期比)	(▲ 5.1)	(▲ 1.2)	(▲ 1.8)	(0.1)	(▲ 2.2)
4年	見通し	▲ 46.9	▲ 11.2	▲ 11.5	▲ 10.6	▲ 13.6
	(今回調査比)	(▲ 5.1)	(▲ 2.1)	(▲ 1.0)	(▲ 1.8)	(▲ 0.2)

#### 【指数の見方】

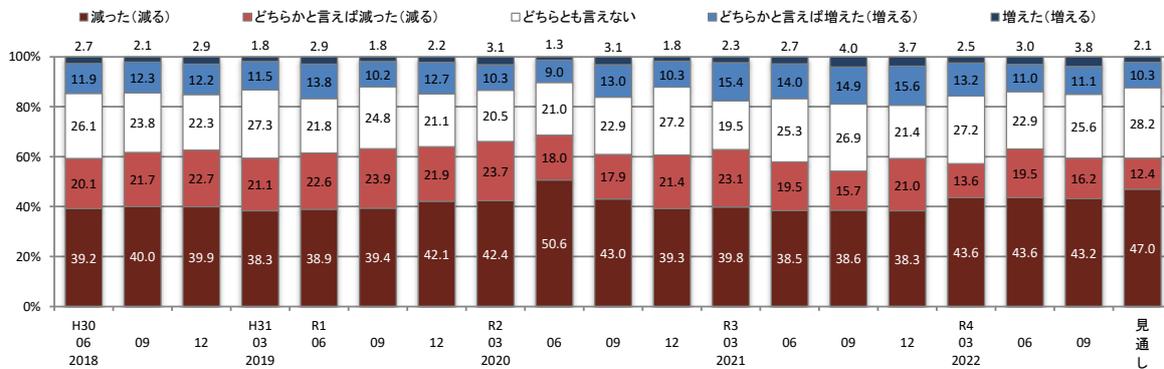
暮らし向き指数は世帯収入、保有資産、お金の使い方、暮らしのゆとりの4項目の合計からなり、値は100～▲100の範囲をとります。指数がプラスであれば暮らし向きは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば低迷していると判断します。

(2) 暮らし向き判断の推移

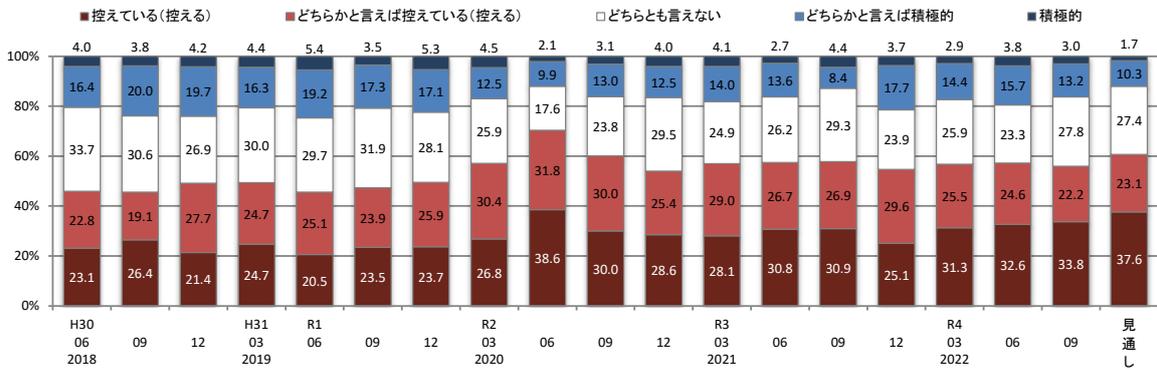
① 世帯（勤労）収入



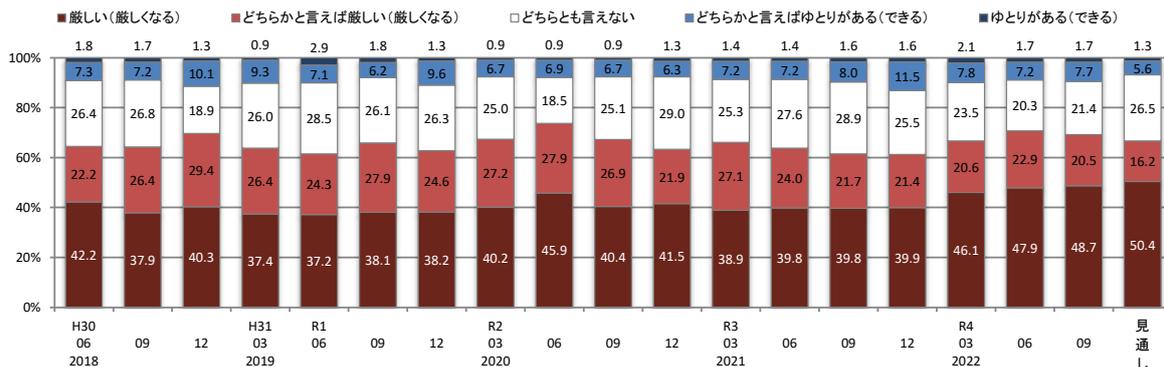
② 保有資産



③ お金の使い方



④ 暮らしのゆとり



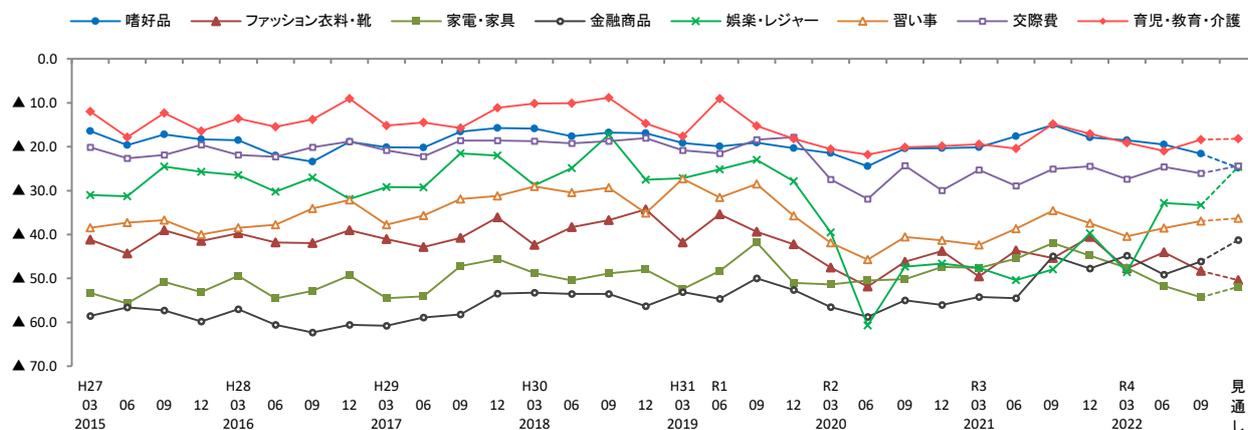
### III. 支出意向

#### 1. 支出意向DIの推移

支出意向DIの平均値は▲35.6（前期比0.4ポイント下落）と2期ぶりの悪化となった。支出意向DIを構成する8つの項目でみると、「金融商品」「育児・教育・介護」「習い事」の3項目で改善となった一方、その他の5項目はいずれも悪化となった。

なお、今後の見通しについては▲34.0（今回調査比1.6ポイント上昇）と改善が見込まれている。8つの項目でみると、「娯楽・レジャー」などの6項目では改善が見込まれている一方、「嗜好品」「ファッション・衣料品」の2項目では悪化の見通しとなっている。

図表5 支出意向DIの推移



調査時期	支出意向DI									
	平均値	嗜好品	ファッション・衣料品	家電・家具	金融商品	娯楽・レジャー	習い事	交際費	育児・教育・介護	
3年	9月	▲33.7	▲15.1	▲45.4	▲42.0	▲45.0	▲48.0	▲34.5	▲25.1	▲14.9
	12月	▲33.7	▲17.9	▲40.5	▲44.9	▲47.7	▲39.7	▲37.4	▲24.5	▲17.1
4年	3月	▲36.8	▲18.5	▲47.8	▲47.6	▲44.8	▲48.6	▲40.5	▲27.4	▲19.1
	6月	▲35.2	▲19.5	▲44.1	▲51.7	▲49.2	▲32.8	▲38.6	▲24.6	▲21.0
4年	9月	▲35.6	▲21.6	▲48.3	▲54.3	▲46.2	▲33.3	▲37.0	▲26.1	▲18.4
	(前期比)	(▲0.4)	(▲2.1)	(▲4.2)	(▲2.6)	(3.0)	(▲0.5)	(1.6)	(▲1.5)	(2.6)
	(前年同期比)	(▲1.9)	(▲6.5)	(▲2.9)	(▲12.3)	(▲1.2)	(14.7)	(▲2.4)	(▲1.0)	(▲3.5)
4年	見通し	▲34.0	▲24.8	▲50.4	▲51.9	▲41.2	▲24.6	▲36.3	▲24.4	▲18.2
	(今回調査比)	(1.6)	(▲3.2)	(▲2.1)	(2.4)	(4.9)	(8.8)	(0.6)	(1.7)	(0.2)

【DI値の見方】

各項目とも、現状判断についてそれぞれDI値を算出する。DI値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、算出方法は次の通り。

例) 嗜好品DI値

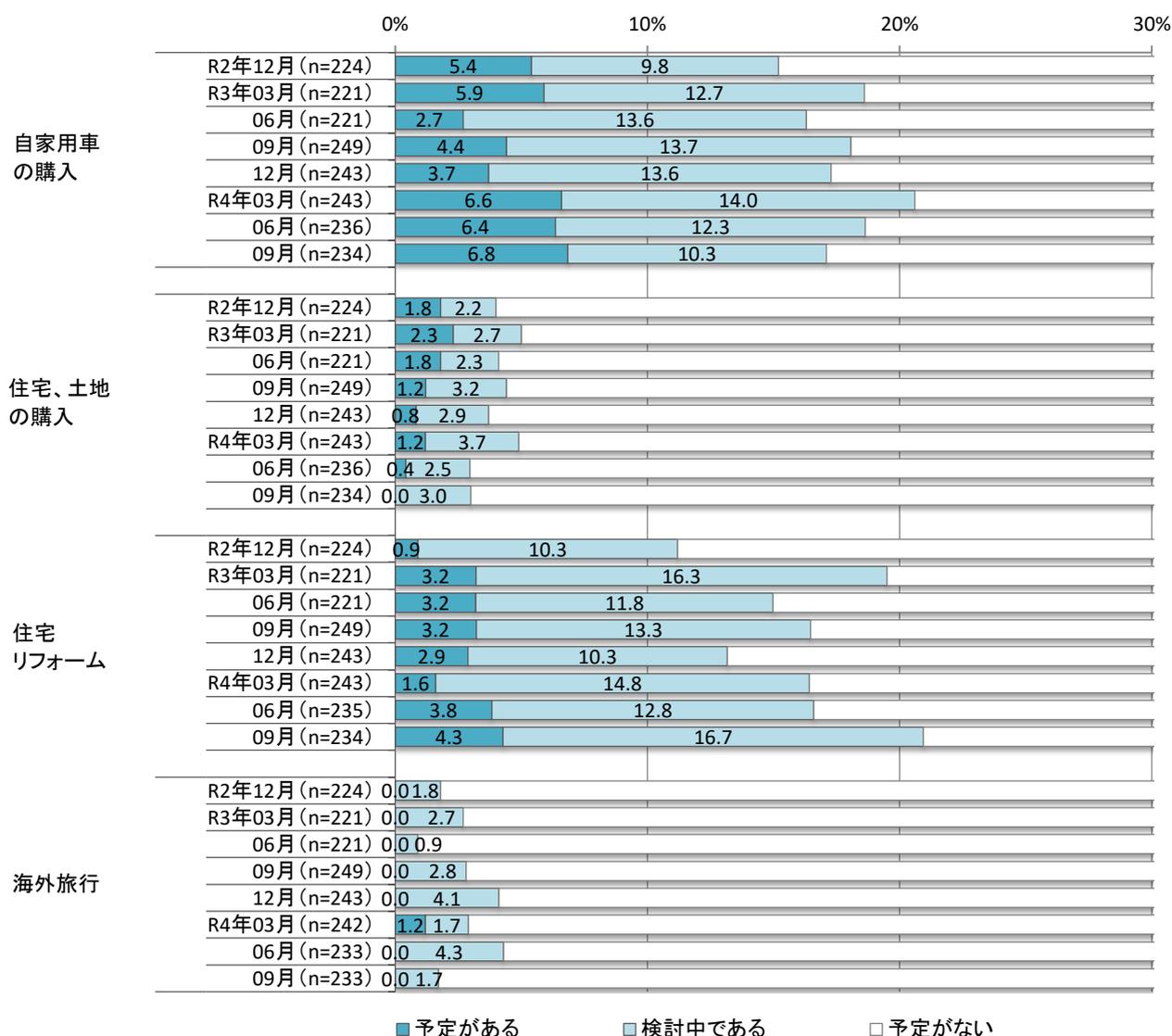
＝（「1. 意欲的である」と回答した世帯の割合×1.0+「2. どちらかと言えば意欲的である」と回答した世帯の割合×0.5）－（「3. どちらかと言えば控えている」と回答した世帯の割合×0.5+「4. 控えている」と回答した世帯の割合×1.0）

## 2. 支出意向（大きな買い物）の推移

大きな買い物の支出意向をみると、「予定がある」と回答した世帯の割合は、「住宅、土地の購入」では0.0%（前期比0.4ポイント低下）と低下となった一方、「海外旅行」は0.0%と横這い、「住宅リフォーム」では4.3%（同0.5ポイント上昇）、「自家用車の購入」では6.8%（同0.4ポイント上昇）とともに上昇となった。

大きな買い物（支出）に前向きな世帯（「予定がある」に「検討中である」を合わせた世帯）の割合では、「住宅リフォーム」で上昇、「住宅、土地の購入」でも小幅な上昇となった一方、その他の2項目では低下となった。

図表6 支出意向（大きな買い物）の推移

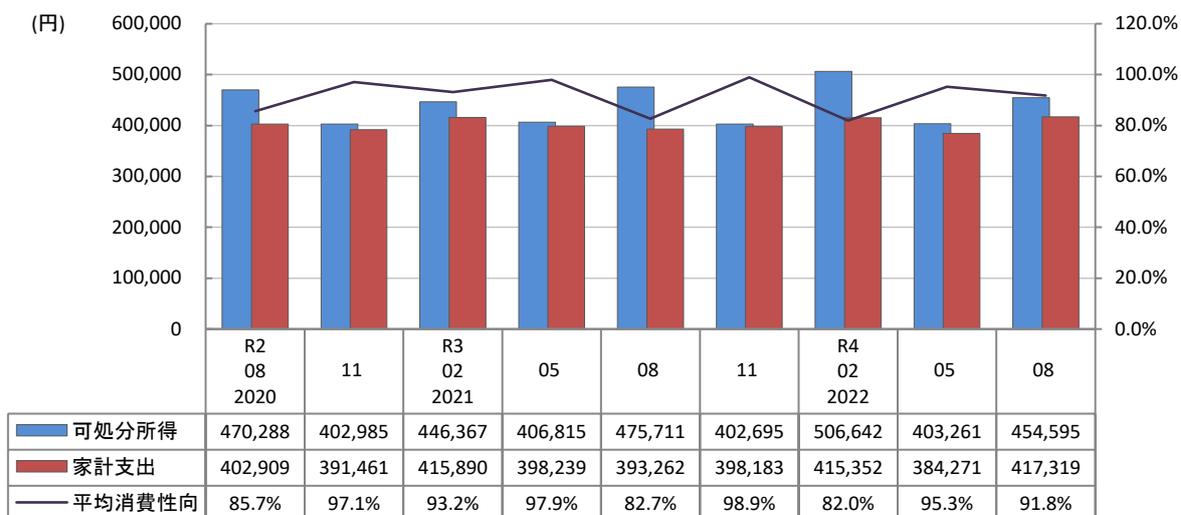


IV. 家計簿調査

図表7 令和4(2022)年8月の家計簿(234世帯)

調査項目	調査年月	R3年 8月	R4年 5月	R4年 8月	(単位:円)		
					前期比	前年同期比	
給与	世帯主の定例給与《支給額》	332,863	334,681	332,648	▲ 2,033	▲ 215	
	世帯主の臨時給与《支給額》	56,025	10,403	41,591	31,188	▲ 14,434	
	A.世帯主の給与《支給額》	388,888	345,084	374,239	29,155	▲ 14,649	
	世帯員の定例給与《支給額》	110,497	114,543	111,718	▲ 2,825	1,221	
	世帯員の臨時給与《支給額》	14,169	4,284	14,179	9,895	10	
	B.世帯員の給与《支給額》	124,666	118,827	125,897	7,070	1,231	
世帯収入合計《支給額》(A+B)		513,554	463,911	500,136	36,225	▲ 13,418	
収入(手取り額)	世帯主の定例給与《手取り額》	254,002	255,270	253,610	▲ 1,660	▲ 392	
	世帯主の臨時給与《手取り額》	44,172	8,416	32,768	24,352	▲ 11,404	
	C.世帯主の勤労収入合計《手取り額》	298,174	263,686	286,378	22,692	▲ 11,796	
	世帯員の定例給与《手取り額》	90,894	93,621	91,801	▲ 1,820	907	
	世帯員の臨時給与《手取り額》	11,793	3,553	11,703	8,150	▲ 90	
	D.世帯員の勤労収入合計《手取り額》	102,687	97,174	103,504	6,330	817	
	世帯勤労収入合計《手取り額》(C+D)		400,861	360,860	389,882	29,022	▲ 10,979
	1. 公的年金給付(老齢、障害、遺族年金)	40,156	9,564	33,246	23,682	▲ 6,910	
	2. 保険給付金(医療、介護、失業保険)	1,004	1,784	2,131	347	1,127	
	3. 各種手当(児童手当、障害者手当など)	4,279	1,271	3,037	1,766	▲ 1,242	
	4. 利息、株式配当、投信配当金	1,533	1,918	689	▲ 1,229	▲ 844	
	5. 事業収入(個人事業、農林水産業など)	2,635	104	783	679	▲ 1,852	
	6. 不動産収入(駐車場、アパート家賃など)	4,839	1,716	2,564	848	▲ 2,275	
	7. 有価証券売却・解約金(株、投資信託など)	967	0	3,547	3,547	2,580	
	8. 不動産売却(土地、住宅、マンションなど)	0	636	0	▲ 636	0	
	9. 中古品売却(リサイクルショップなど)	346	386	186	▲ 200	▲ 160	
10. 保険満期返戻金	756	14,110	4,791	▲ 9,319	4,035		
11. 保険一時金(生命保険、損害保険など)	110	1,008	1,366	358	1,256		
12. 相続、贈与、退職金	7,851	0	85	85	▲ 7,766		
13. 祝金、謝礼金、香典など	1,542	1,165	5,620	4,455	4,078		
14. 身内からの仕送り	2,048	1,619	1,282	▲ 337	▲ 766		
15. 借り入れ(カードローン、キャッシング)	2,346	2,620	1,709	▲ 911	▲ 637		
16. その他	4,438	4,500	3,677	▲ 823	▲ 761		
E. その他収入(控除後)	74,850	42,401	64,713	22,312	▲ 10,137		
I. 収入計(C+D+E)		475,711	403,261	454,595	51,334	▲ 21,116	
支出	1. 食費(飲食会費は含まない)	60,658	58,010	59,280	1,270	▲ 1,378	
	2. 住居費(家賃、駐車場、修繕)	14,039	11,497	14,544	3,047	505	
	3. 水道・光熱費(電気、ガス、上下水道、灯油など)	25,085	31,888	27,053	▲ 4,835	1,968	
	4. 生活用品(生活雑貨、家事消耗品など)	12,034	11,667	11,837	170	▲ 197	
	5. 被服・装飾費(衣服、アクセサリ等)	9,524	10,071	10,351	280	827	
	6. 医療・介護・理美容(通院、医薬品など)	12,808	10,834	12,893	2,059	85	
	7. 交通費1(バス、鉄道、飛行機、高速道路料金など)	2,793	4,203	6,024	1,821	3,231	
	8. 交通費2(ガソリン代)	16,971	16,792	17,606	814	635	
	9. 自動車関連費用(車検、メンテナンス、タイヤなど)	12,368	9,664	23,810	14,146	11,442	
	10. 通信費(電話、新聞、受信料、プロバイダー料金など)	22,271	20,911	21,514	603	▲ 757	
	11. 教育費(授業料、教材費、学習塾、部活費用など)	12,067	17,556	9,709	▲ 7,847	▲ 2,358	
	12. 育児費(子ども用品、保育園、幼稚園など)	2,252	2,031	2,569	538	317	
	13. 交際費(飲食会費、贈答品、冠婚葬祭費など)	14,080	13,916	20,550	6,634	6,470	
	14. 娯楽、趣味(旅行、レジャー、映画鑑賞など)	7,904	9,616	15,227	5,611	7,323	
	15. 習い事(英会話、料理教室、スポーツクラブなど)	2,360	3,938	2,343	▲ 1,595	▲ 17	
	16. 高額商品(パソコン、家電、家具、インテリアなど)	10,837	7,371	24,284	16,913	13,447	
	17. 金融商品1(株、国債、外貨、金など)	4,742	1,382	1,628	246	▲ 3,114	
	18. 金融商品2(投資信託、変額・定額年金保険)	13,867	11,074	7,106	▲ 3,968	▲ 6,761	
	19. 借入返済1(住宅ローン)	32,869	27,944	34,588	6,644	1,719	
	20. 借入返済2(自動車、学資、カードローン)	12,113	10,978	10,771	▲ 207	▲ 1,342	
	21. 税金、各種保険料支払い(給与天引き以外)	37,368	53,955	36,612	▲ 17,343	▲ 756	
	22. 身内への仕送り(学生など)	15,040	9,572	7,695	▲ 1,877	▲ 7,345	
	23. 小遣い、その他	39,212	29,401	39,325	9,924	113	
II. 支出計		393,262	384,271	417,319	33,048	24,057	
平均消費性向(支出計÷収入計×100)		82.7%	95.3%	91.8%	▲ 3.5%	9.1%	
平均貯蓄性向(1-平均消費性向)		17.3%	4.7%	8.2%	3.5%	▲ 9.1%	

図表 8 家計の収支と平均消費性向の推移



家計簿調査によれば、収入面では可処分所得（収入の手取り額）が 455 千円となり、前年同期と比べて 21 千円の減額となった。勤労収入では、「世帯主の勤労収入合計（手取り額）」が前年同期比で 12 千円減少した一方、「世帯員の勤労収入合計（手取り額）」が 1 千円の増加となり、これを合わせた「世帯勤労収入合計（手取り額）」は 11 千円減少の 390 千円となった。「その他収入（控除後）」は 65 千円で前年同期に比べて 10 千円の減額となり、前年同期と比べて増減額の大きな項目は、「相続、贈与、退職金」が 8 千円の減少、「公的年金給付（老齢、障害、遺族年金）」が 7 千円の減少となった。

支出面では支出合計が 417 千円となり、前年同期比で 24 千円の増額となった。前年同期と比べて増減額の大きな項目は、「高額商品（パソコン、家電、家具、インテリアなど）」が 13 千円の増加、「自動車関連費用（車検、メンテナンス、タイヤなど）」が 11 千円の増加となった。

この結果、平均消費性向（家計支出/可処分所得）は 91.8%（前年同期比 9.1 ポイント上昇）となった。

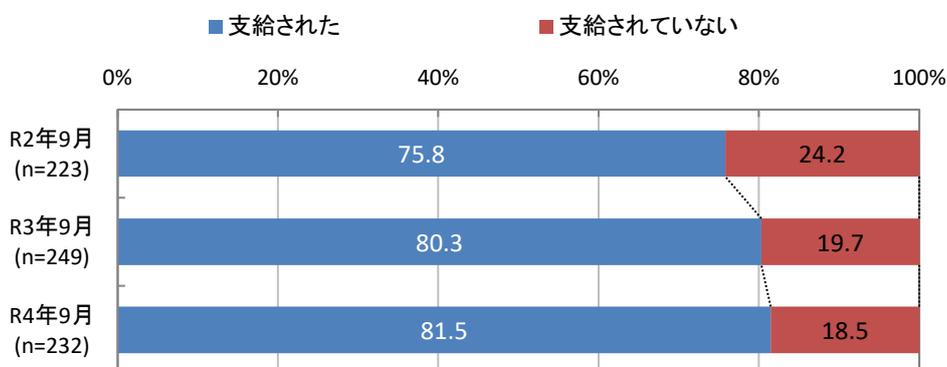
## V. 特別調査

### 1. 夏季ボーナスの支給状況と使い道について

#### (1) 夏季ボーナスの支給について

家計の主たる収入を得ている人について、夏季ボーナスが支給されたかどうかを尋ねたところ、「支給された」が 81.5%（前年比 1.2 ポイント上昇）と 3 年連続で上昇し、全体の 8 割以上を占めた。一方、「支給されていない」は 18.5%（同 1.2 ポイント低下）であった。

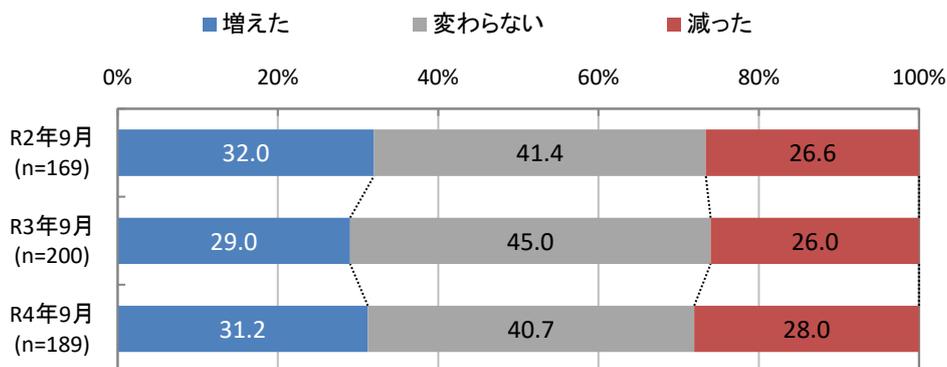
図表 9 夏季ボーナス支給の有無



#### (2) 支給状況

夏季ボーナスを「支給された」と答えた世帯に、昨年夏と比べた支給額の状況（変化）について尋ねたところ、「変わらない」が 40.7%と前年に比べて 4.3 ポイントの低下ながら、引き続き最も割合が高く、次いで「増えた」が 31.2%（同 2.2 ポイント上昇）で続き、「減った」は 28.0%（同 2.0 ポイント上昇）となった。

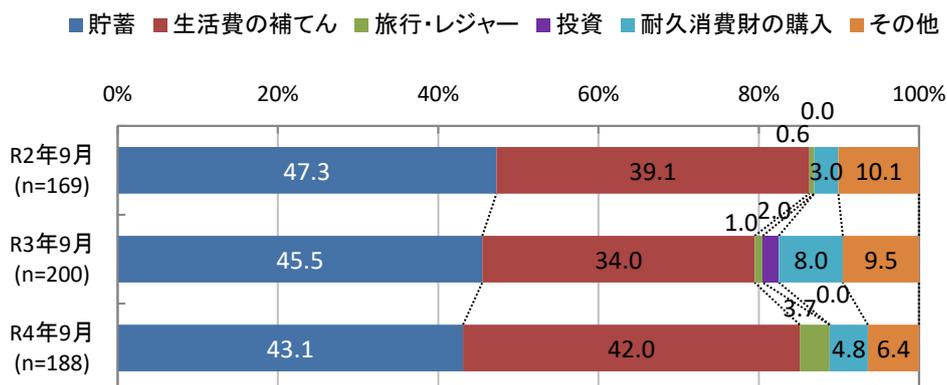
図表 10 昨年夏と比べた場合の支給額の変化



### (3) 主な使い道

夏季ボーナスが「支給された」と答えた世帯に、ボーナスの使い道（最も金額の大きい物）について尋ねたところ、「貯蓄」が43.1%（前年比2.4ポイント低下）と引き続きトップとなったほか、「生活費の補てん」も42.0%と前年から8.0ポイント割合が上昇してほぼ同様の割合となった。一方、その他の項目はいずれも1割未満となった。

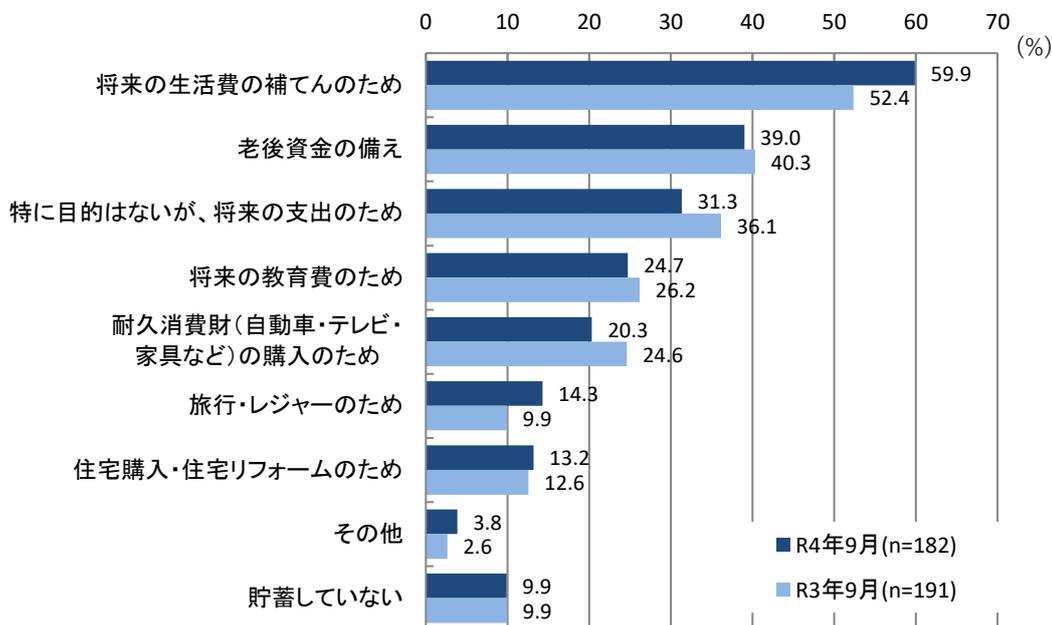
図表11 夏季ボーナスの使い道（もっとも金額の大きい物）



### (4) 貯蓄の目的

夏季ボーナスが「支給された」と答えた世帯に、ボーナスのうち貯蓄にあてた分の目的について尋ねたところ、「将来の生活費の補てんのため」が59.9%と前年に比べて7.5ポイント割合を高めて引き続きトップとなった。次いで「老後資金の備え」（39.0%）と「特に目的はないが、将来の支出のため」（31.3%）が前年と同順位で続いた。

図表12 貯蓄の目的（回答は3つまで）



## VI. 調査の概要

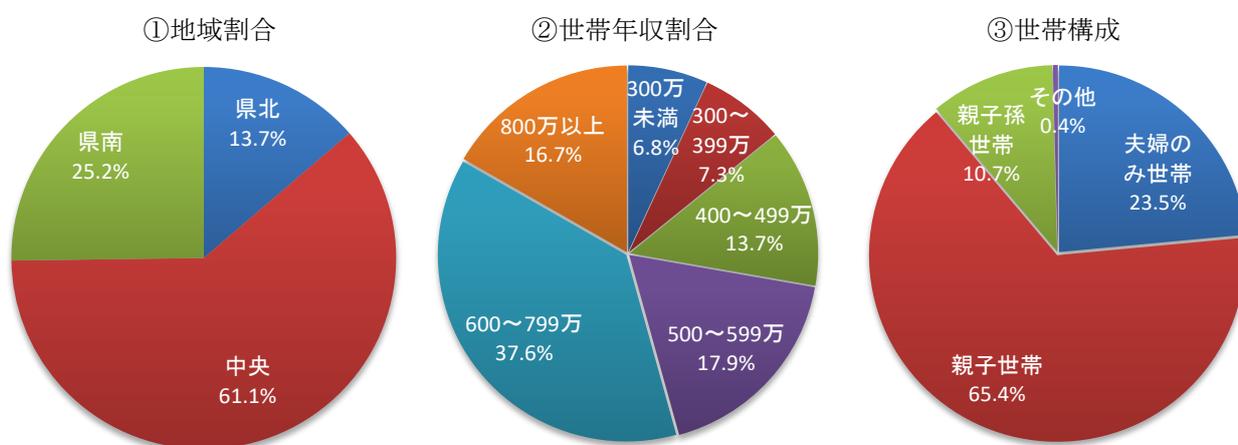
### 1. 調査の目的

秋田県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

### 2. 調査の内容

- ◆ 専属モニターを利用したアンケート調査
- ◆ モニター世帯数：247世帯 有効回答数：234世帯 回答率：94.7%

### 3. 回答モニター属性



### 4. 調査の対象者

秋田県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数2人以上の世帯）

### 5. 調査期間

令和4（2022）年9月1日（木）～15日（木）

### 6. 地域区分

地域名	対象となる市町村名
県北	大館市、能代市、北秋田市、鹿角市、三種町、八峰町、小坂町、藤里町、上小阿仁村
中央	秋田市、由利本荘市、潟上市、男鹿市、にかほ市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村
県南	横手市、大仙市、湯沢市、仙北市、美郷町、羽後町、東成瀬村

#### <お問い合わせ先>

株式会社 フィデア情報総研 地域政策コンサルティング部（秋田事業所） 後藤／佐藤

#### 秋田事業所

〒010-0001 秋田県秋田市中通 3-1-41 北都銀行本店 3F  
Tel : 018-837-1727 Fax : 018-834-5508

#### 山形支社

〒990-0043 山形県山形市本町 1-4-21 荘銀山形ビル 8F  
Tel : 023-626-9017 Fax : 023-626-9038 E-mail : kenkyuu@fir.co.jp  
URL : <https://www.fir.co.jp/>